

2006年1月～2013年12月に本院の呼吸器外科で、肺腺癌に対する根治的手術(肺葉切除、区域切除)を受けた方へ

研究 肺腺癌におけるXB130の発現と予後解析の実施について

1. 本研究の目的および方法

本研究は肺腺癌の患者を対象に調査を行い、肺腺癌組織のXB130発現とその予後について解析することを目的としています。

肺腺癌は日本における部位別の癌死亡数第1位の疾患です。中でも肺腺癌は最多で、その原因や新規治療についてのさらなる研究が望まれています。XB130は別名AFP1L2(Actin Filament Associated Protein 1-like 2)と呼ばれる細胞シグナルを伝搬するアダプター蛋白です。癌細胞において細胞浸潤や生存などの腫瘍の進行に重要な役割を果たすとされ、これまでの研究で様々な癌種でXB130の発現が予後と関連している可能性が報告されています。今回の研究では、手術で摘出した肺腺癌の病理検体を用いて、タンパク質であるXB130の発現を調べることで、そして予後との関連を検討します。

研究対象者:2006年1月～2013年12月に本院の呼吸器外科で肺腺癌に対する手術を受けられた方
研究方法

- ・手術で摘出した組織のホルマリン固定標本を用いて、免疫染色検査によりXB130の発現を調べます。
- ・臨床情報とXB130の発現の関係について調査します。
- ・研究全体の実施期間は、委員会の承認後、研究機関の長の許可日～2030年12月31日までです。予定対象者数は260名です。
- ・本研究は、徳島大学病院生命科学・医学系研究倫理審査委員会の承認を得た後、徳島大学病院長の許可を得て実施しています。

2. 研究に用いる試料・情報の項目および保管方法について

- ・研究に用いる試料:手術で摘出された組織の余剰分
- ・研究に用いる情報:年齢、性別、喫煙歴、癌の進行度、臨床検査結果、予後情報など
- ・記録の保管責任者は胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 滝沢宏光教授とし、施錠のある当科医局に本研究に関わる文書を保存する予定です。
- ・本研究で収集した試料は、鍵のかかる当科研究室にて適切に保管します。診療情報等の情報は、電子媒体として保存し、当科医局の施錠可能なコンピューター(外部ネットワークとの接続無し)に保管します。
- ・収集した試料・情報は本研究でのみ使用することとし、研究の中止又は終了後10年の間保管した後、試料は、医療廃棄物として廃棄、また情報は、データを適切に削除します。
- ・本研究では、試料・情報は徳島大学のみで取り扱い、外部への提供はいたしません。

3. 研究結果の公表について

本研究の結果は学会や雑誌等で公表することがありますが、公表に際しては特定の研究対象者を識別できないように措置を行った上で取り扱います。

4. 研究資金および利益相反管理について

本研究における特別な研究資金はありません。本研究は、本院の研究費のみを使用して実施されます。本研究の利害関係については、臨床研究利益相反審査委員会の審査を受け、承認を得ております。

5. 本研究への参加を拒否する場合

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究責任者および連絡(問合せ)先

【研究機関】 徳島大学大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野

【研究責任者】徳島大学病院 呼吸器外科

徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床腫瘍医療学分野教授 鳥羽博明

【連絡先】

徳島大学病院 呼吸器外科

徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床腫瘍医療学分野 教授 鳥羽博明

電話番号:088-633-7143(徳島大学大学院 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野)

本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡下さい。